



立教大学

2017年度専門演習選考

是永ゼミ 説明会

2016.10.13

是永 論

- **2018年度の卒業論文担当が変わる可能性**
- サブゼミ時間は定期的に設けないが、**授業時間後の活動を前提**（木曜日4時限以降を予定）
- 夏休み明け前に合宿を実施（**授業時間として**）
- **パソコンの利用能力がある程度必要**
テキストマイニングのソフトウェア操作
データベースの利用／図表作成
- 物事を調べ上げる根気のある人
細かいことに好奇心のある人／気がつく人

本日の内容

1. ゼミについて
2. ゼミの進め方
3. 選考要領

1.このゼミについて

- テーマ：
「ことば」を通じた社会の理解

家でやろう。

Please do it at home.



 車内での化粧はご遠慮ください。
Please refrain from putting on make-up in the train.

家でやろう。

Please do it at home.



 車内では周りのお客様にご配慮ください。
Please be considerate of those around you on the train.

投書数

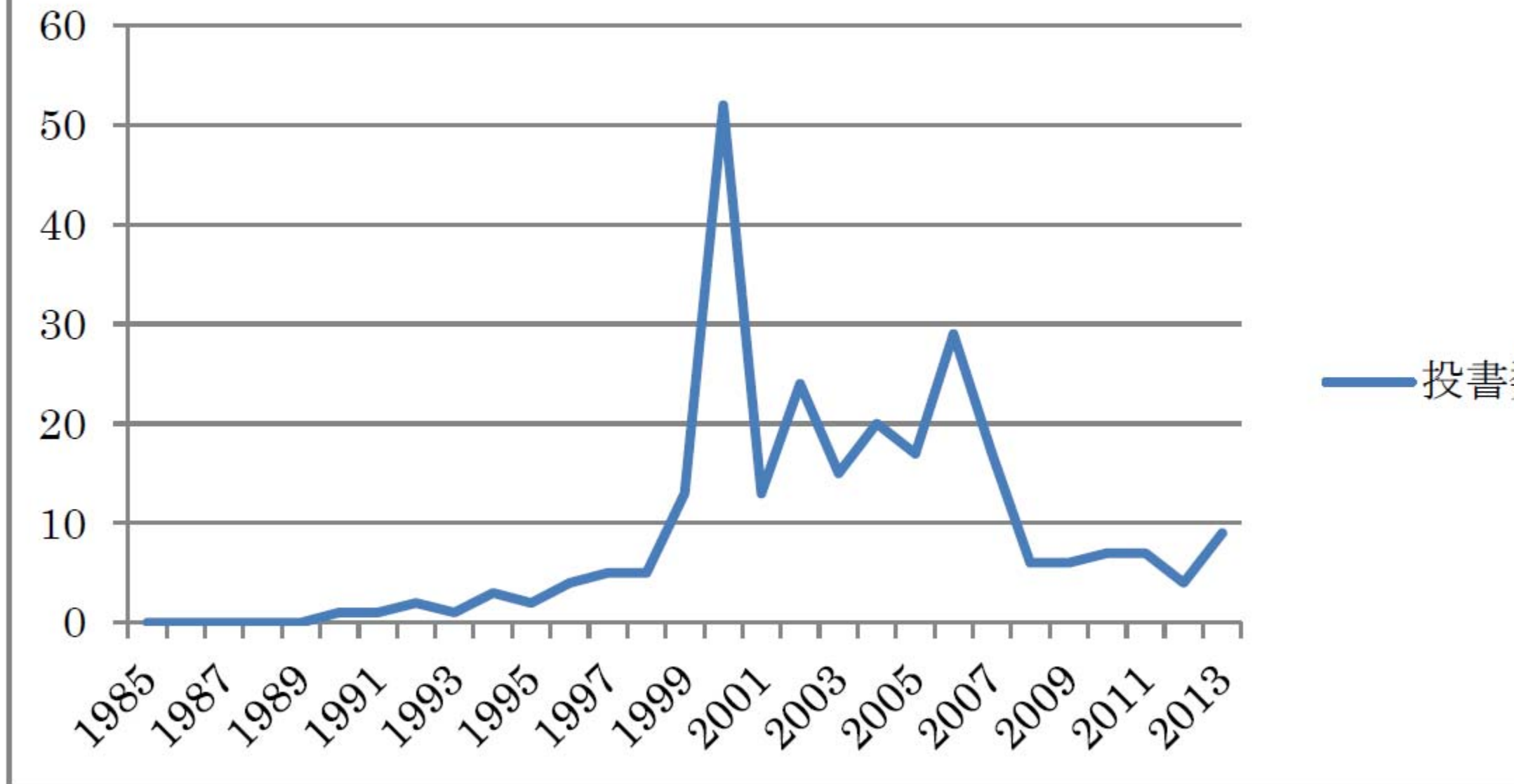


図 2.3.5 車内化粧に関する投書数の推移

「電車・車内と化粧」に関連したことは

表 5.3.1 対象記事に出現した各カテゴリーの割合

カテゴリー	1990-1994	1995-1999	2000-2004	2005-2009	2010-2013
若者	53.30%	<u>70.70%</u>	<u>67.20%</u>	58.20%	52.5%
大人	0.00%	22.00%	17.80%	20.30%	8.5%
教育	26.70%	31.70%	34.00%	29.20%	32.2%
周囲	40.00%	47.60%	35.20%	34.40%	40.7%
視線	20.00%	52.40%	43.30%	41.50%	50.8%
恥ずかしい	6.70%	13.40%	10.50%	13.20%	15.3%
実害	33.30%	7.30%	7.70%	10.40%	11.9%
日本	20.00%	29.30%	32.80%	<u>37.70%</u>	33.9%
席	26.70%	30.50%	30.40%	35.80%	37.3%

社会を理解すること

ことば」を分析することで見えてくるもの

◎ 社会において人々が何をどのようなものとして理解しているのか？

例：「車内化粧は迷惑」「日本は技術大国」…

⇒なぜそれが可能になってきたのか？

⇒そうした理解により人々は何をしているのか？

= 社会を理解すること・社会学の課題として

2. ゼミの進め方

- 前期

- 前半

- テキスト講読と議論

- 後半

- テキストマイニングの習得

- 調査計画の立案と調査の実施

2. ゼミの進め方

- 後期

 - 前半

 - 調査計画の立案と調査の実施

 - 後半

 - データ収集と分析→レポート報告

- ゼミレポートを[研究室ホームページ](#)に掲載

 - 「学部演習」 → 「前年度までの記録」 から

3. 選考要領

- 課題 現在関心のあるテーマについて
 - 1) テーマの内容
 - 2) そのテーマについてこれまで読んだ本を取り上げて説明
 - 3) テーマを考えるにあたって重要であるポイントを表現した「キーワード」とそれを選んだ理由
 - 4) あなた自身を短い「ことば」で表現
- 全体で1200字程度
- 他の書類（成績表も）と**事務窓口へ提出**

- **書類提出最終日の翌日以降に**
ホームページ上の「お知らせ」で指示
「立教 是永研究室」で検索

※コーラスに応募ページを作成
面接希望時間の登録→研究室で面接

- **2018年度の卒業論文担当が変わる可能性**
- サブゼミ時間は定期的に設けないが、**授業時間後の活動を前提**（木曜日4時限以降を予定）
- 夏休み明け前に合宿を実施（**授業時間として**）
- **パソコンの利用能力**がある程度必要
 - テキストマイニングのソフトウェア操作
 - データベースの利用／図表作成
- 物事を調べ上げる根気のある人
 - 細かいことに好奇心のある人／気がつく人

では、お待ちしております



立教大学

The founding spirit of Rikkyo University is steeped in Christian values of providing a liberal education that nurtures every aspect of the individual. These values continue to be our guiding principle.